

K.T 公認会計士

東京都立大学

都市環境学部観光科学科卒

私は現在、監査法人で会計監査の仕事に従事しております。都市計画やまちづくりを学びたいと考えていた大学入学当初からは、全く思いもよらない進路を歩むことになり、自分でも驚いています。まさに「人生何が起こるか分からない」を体現した4年間でした。

東京での学生生活に胸を高鳴らせていた高校3年生の3月、新型コロナウイルスの影響が徐々に広がり始めていました。2020年4月、大学の入学式は中止。5月からようやく前期の授業が始まりましたが、すべてオンライン形式だったため上京を見送り、しばらくは長崎の実家で過ごすことになりました。9月末、後期から週1コマ対面授業が実施されることになり、上京しましたが、その後も授業のほとんどはオンライン形式で行われました。通常の大学生活に戻ったのは、大学3年生の春のことでした。

コロナ禍の2年間、私は自分の将来について幾度も考えていました。都市計画やまちづくりに関われる仕事とは何か、そもそも世の中にはどのような仕事があるのか、と模索する中で、公認会計士という職業に出会いました。それまで名前しか知らなかった職業でしたが、調べるうちに、会計監査を通じて資本市場に信頼を提供するという社会的意義に強く惹かれ、その道を志すようになりました。また、社会情勢の大きな変化を身をもって経験したことで、「人生100年時代を生き抜くための強い武器を持ちたい」という思いも、挑戦の大きな後押しとなりました。

大学3年生の4月から公認会計士試験の勉強を開始し、約1年半にわたる勉強漬けの生活を経て、大学4年生の8月の試験で合格することができました。受験生活は想像以上に過酷で、孤独感や不安に押しつぶされそうになる時期もありました。しかし、その度に合格後の未来を頭に浮かべ、自分を励ましながら日々机に向かい続けました。辛く苦しいことばかりの受験生活でありましたが、その分、成し遂げた経験は私にとって生涯の財産となっています。

大学卒業後は監査法人に就職し、会計士としての一步を踏み出しました。まだまだ分からないことばかりですが、財務諸表の開示制度の下で、会計士による監査が果たしている役割や責任の重大さを日々痛感し、その一端を担っていることにやりがいを感じています。

公認会計士法第1条には、「公認会計士は、監査及び会計の専門家として、独立した立場において、財務書類その他の財務に関する情報の信頼性を確保することにより、会社等の公正な事業活動、投資者及び債権者の保護等を図り、もって国民経済の健全な発展に寄与することを使命とする。」と記されています。この使命を胸に刻み、社会からの期待に応えられるプロフェッションになれるようこれからも精進していきます。